

滋賀県総合教育会議資料

「地域で学ぶ」支援体制強化事業における「副次的な学籍」・「合理的配慮」の研究、および特別支援学校における教育活動について

平成29年8月31日(木)

滋賀県立長浜養護学校

教頭 原 一正

本研究の定義および目的

- 特別支援学校あるいは小中学校に在籍する「特別支援学校への就学要件を満たす児童生徒」が、地域の小中学校あるいは特別支援学校に副次的な学籍をもち、交流及び共同学習に加え、定期的に授業を受ける等、多様な柔軟な学びの場で教育を受ける仕組み。

特別支援学校⇔小中学校の双方向

- 障害のある児童生徒は、地域で学ぶことにより、同世代の児童生徒との関係を構築し、自立と社会参加に向けた地域とのつながりを深める。
- 障害のない児童生徒は、互いを尊重し支え合いながら生きる、共生社会の形成者としての資質を高める。
- 両校在籍者の他、教員や保護者の障害理解や相互理解を深める。

朝日小学校における学習の両校児童の目標 (長浜養護学校児童が小学校に副次籍を置くケース)

<長浜養護学校在籍児童の目標>

- 友達からの働きかけにより、他者を意識することができる。
- 賑やかな大きい集団の中で楽しいと感じることができる。

<朝日小学校児童の目標>

- 障害のある児童と共に学び合うことにより、互いに尊重する態度を養う。

長浜養護学校における学習の両校児童の目標 (古保利小学校児童が長浜養護学校に副次籍を置くケース)

<古保利小学校在籍児童の目標>

- 自立活動等専門的な指導を受け、社会自立の力をつける。
- 切磋琢磨できる仲間と一緒に活動する経験を重ね、社会性を身につける。

<長浜養護学校児童の目標>

- 新しい友達と一緒に活動することができる。

両校児童の朝日小学校における学習の成果

- 朝日小学校の児童は、他学年の児童も含めて自然体で関わりや学習する姿が見られる。
- 長浜養護学校では体験できない学習の場が生まれ、色々なことを見たり感じたりすることができる。
 - ・多くの友達からの言葉や行動による関わり。
 - ・大人数の児童の歌声や演奏などを聴く。
 - ・賑やかな歓声の中での田植えの経験。

など

両校児童の長浜養護学校における学習の成果

- 日頃体験できない同じような教育課題の友達と、コミュニケーションの取り方やルールを守り方などの集団活動の場が生まれている。
- 小学校では取り組むことが少ない学習や、より実態に即した学習課題に取り組むことができる。
- 自立活動の学習で学んだことを、小学校で自主的に取り組もうとするなど、主体性の高まりにつながっている。
- 小学校の先生方に特別支援学校の専門性を示し、学んでいただく機会になっている。(センター的機能の発揮の1つの形)

特別支援学校における教育活動について =小学部における遊びの指導=

- 特別支援学校の小学部、中学部又は高等部においては、知的障害者である児童若しくは生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合において特に必要があるときは、各教科、道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる。

学習指導要領より

各教科等を合わせた指導の内容

- 日常生活の指導(登下校時の着替え、朝の会など)
- 遊びの指導(小学部において、各教科等の内容を合わせた学習)
- 生活単元学習(大きな行事を核として、各教科等の内容を合わせ、単元を設定し取り組む学習 等)
- 作業学習(主に高等部で、農業、木工、陶芸、食品加工などの作業をもとに販売活動なども含めることで、各教科等の内容の学習に取り組む。)

おわりに

滋賀の教育の基本目標

未来を拓く心豊かでたくましい人づくり
～学び合い支え合う「共に育つ」滋賀の教育～

- 副次的な学籍の研究については、この目標を具現化する1つの方策として、成果や課題を明確にしていきたい。
- 特別支援学校に在籍する障害の重い児童生徒から教えられることが多いのが特別支援教育。この学びを活かして、特別支援教育の更なる質の向上を考えていきたい。